

# 批判的思考力を育成する社会科学習

名古屋市立富士見台小学校教諭 堀 田 拓 和

## I 研究のねらい

私が考える批判的思考力とは、「考えを論理的に整理したり、根拠の不十分さや偏りに気付いたりした上で、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことができる力」である。『令和の日本型学校教育』の構築を目指して(答申)」では、「先進技術が高度化して、あらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety5.0時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは劇的に変わる状況が生じつつある」と述べられており、誤った情報や偏った情報に惑わされることなく、予測困難な社会を生き抜く力として、批判的思考力を育成することが重要であると考え。小学校学習指導要領解説社会編では、「社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力を養う」と明記されており、複数の立場や意見を踏まえて多角的に考える力が求められている。批判的思考力を育成することで、社会的事象を多角的に捉える姿を期待できることから、公民としての資質・能力の基礎を養う上でも意義があると考え。

批判的思考を研究する第一人者である京都大学教授楠見孝氏は、批判的思考を身に付けた市民を育てるには、小・中学校からの批判的思考教育が必要であるとしている。その一方で、小・中学校における教育実践が少ないことを指摘し、その必要性を述べている。

これまでの自分の実践を振り返ると、価値判断を迫る問いについて子どもたちが考えをもつ際、先に判断をして、後から辻褄が合う根拠を示そうとしている姿が見られた。これは、根拠を踏まえず直感的に判断した姿であり、複数の立場や意見を踏まえて考えをもつことができた姿とは言えない。楠見氏は、批判的思考について、「証拠に基づいて論理的に考えたり、自分の考えが正しいかどうかを振り返り、立ち止まって考えたりすること」に本質があると述べている。そこで、批判的思考の認知プロセスである「①情報の明確化(問いを意識して主張や根拠を明確にする)」、「②推論の土台の検討(隠れた前提を明らかにしたり、証拠の信頼性を検討したりする)」、「③推論(根拠に基づいたバランスのよい価値判断を行う)」、「④行動決定(結論を導く)」を学習活動に組み込む。そして、考えを論理的に整理したり、根拠の不十分さや偏りに気付いたりした上で、複数の立場や意見を踏まえた考えをもたせることができるようにしたい。

中学生を対象に批判的思考力の育成を目指す実践を行った愛知学院大学教授の榊原範久氏は、批判的思考の認知プロセスの①から④を経験させる「4Cチャート」という学習シートを活用している。榊原氏は、4Cチャートが効果的であったとした一方、発達段階に合わせた検証ができていないことを課題として挙げている。そこで、本実践では、小学生の発達段階に合わせて、「①情報の明確化」と「②推論の土台の検討」を組み込んだ「2Cチャート」を作成し、形式や活用方法を考案したい。

また、琉球大学教授の道田泰司氏は、「歴史分野であれば、教科書に記載されている歴史を唯一の見解と考えるのではなく、対立する複数の見解を比較し評価することで、批判的思考を育成する教育がある」と述べている。このことから、本実践では、二者択一の価値判断を迫る問いを設定し、対話させることで、「③推論」を経験させる。その後、二者択一の価値判断を迫る問いに対する考えを文章で記述させることで、「④行動決定」を経験させる。

以上のことから、本実践では、学習シートと対話の二つの手だてを講じることで、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことができる力、つまり、批判的思考力の育成を目指すことができると考えた。

## Ⅱ 研究の方法

1 研究の対象 名古屋市立富士見台小学校 第6学年 35人

### 2 基本的な考え

育てたい子ども像に迫るために、「つかむ」「調べる」「まとめる」「考える」の学習段階を設定し、「考える」段階の中に批判的思考の認知プロセスを位置付けて、学習を進める。学習問題についてまとめた後、二者択一の価値判断を迫る問いに出合わせる。まず、価値判断を迫る問いに対する根拠を、2Cチャートに選ぶ。(①情報の明確化)次に、根拠を選んだ理由を、2Cチャートに記述する。(②推論の土台の検討)そして、2Cチャートを活用して対話を行い、根拠の不十分さや偏りに気づき、根拠を変更するかどうかを決め、その理由を説明する。必要に応じて2Cチャートを修正する。(③推論)最後に、価値判断を迫る問いに対する考えを文章で記述する。(④行動決定)【資料1】

| 学習活動 |                            | 批判的思考の認知プロセス |
|------|----------------------------|--------------|
| 手だて1 | 根拠を選ぶ                      | ①情報の明確化      |
|      | 根拠を選んだ理由を記述する              | ②推論の土台の検討    |
| 手だて2 | 根拠の不十分さや偏りに気付いた上で、変更するか考える | ③推論          |
|      | 文章で考えをまとめる                 | ④行動決定        |

【資料1】学習活動と批判的思考の認知プロセスとの関係

これらにより、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことにつなげる。

#### (1) 根拠に基づいて考えを論理的に整理するための「2Cチャート」の作成

「考える」段階で、二者択一の価値判断を迫る問いに出合った後、まず、判断する上で必要だと思った根拠を2Cチャートに選ぶ。次に、根拠を選んだ理由を、2Cチャートに記述する。最後に、二者択一の価値判断を迫る問いに対して、判断をする。このように、根拠、理由、判断の順で考えをもつことで、選んだ根拠や説明した理由が、どちらの判断を支えているのかが明確になり、根拠に基づいて考えを論理的に整理することができるようになると考えた。【資料2】。

最後に、カードの色を変え、価値判断を迫る問いに対して判断する。

天皇中心の国づくりは、当時の人々にとってよかったと言えるのだろうか。 よかった よくない

資料と、資料を選んだ理由

人々の住まいは竪穴住居のままで、縄文時代から変化していないからよくない。

一般の人々は、重い税負担を課されることになり、苦しい生活強いられることになったからよくない。

人々が都へ行くにはたくさんの時間が必要で、とても苦しい税負担になってしまっていたからよくない。

大仏づくりでは、多くの人々が命を落とすことになり、大仏の完成を見ることができなかった人も多かったからよくない。

「①情報の明確化」必要だと思った根拠を選ぶ。

「②推論の土台の検討」根拠を選んだ理由を記述する。

【資料2】2Cチャートの活用方法

#### (2) 根拠の不十分さや偏りに気付くための対話

「考える」段階で、価値判断を迫る問いに対する考えを2Cチャートに整理した後、ペアを組ませる。その際、「推論」のプロセスを円滑に進めるためにチェックリストを活用して、対話を行う【資料3】。まず、根拠の共通点と相違点を探す。次に、共通点や相違点に着目して、根拠を選んだ理由を説明する。最後に、相手の意見を踏まえて、自分が選んでいる根拠や理由を変更するかどうかを決め、その理由を説明する。その後、ペアを変えながら同様の対話を繰り返す。このように、対話を通して、相手が選んだ根拠や、その理由と、自分が選んだ根拠や、その理由の違いを認識することで、根拠の不十分さや偏りに気付くことができるようになると考えた【資料4】。

| 順番        | 活動                                                                | チェック                     |
|-----------|-------------------------------------------------------------------|--------------------------|
| ①くらべて、探す。 | 自分と相手の資料をくらべて、同じ資料や、ちがう資料を探す。                                     | <input type="checkbox"/> |
| 資料が同じ     | ②説明する。資料を選んだ理由を説明する。                                              | <input type="checkbox"/> |
|           | ③考えて決める。相手と理由がちがう場合、相手が述べた理由を自分の2Cチャートに取り入れるかどうかを考えて決め、その理由を説明する。 | <input type="checkbox"/> |
| 資料がちがう    | ④説明する。資料を選んだ理由を説明する。                                              | <input type="checkbox"/> |
|           | ⑤考えて決める。相手が選んだ資料を自分の2Cチャートに取り入れるかどうかを考えて決め、その理由を説明する。             | <input type="checkbox"/> |

【資料3】対話のチェックリスト

選んだ根拠が同じで、理由が異なる児童同士の対話

大仏づくりは、当時の民衆の負担を増やして、苦しい生活を行うことになったから、当時の人々にとってよくなかった理由として選んだよ。

わたしも大仏づくりを根拠に選んだけど、水銀中毒で亡くなってしまうことが多いからだと思って、負担を増やして生活が苦しくなったことの方が納得できる理由だと思う。

異なる解釈を知った上で、根拠を修正している。(=根拠の不十分さに気付く)

選んだ根拠が異なる児童同士の対話

租庸調の税制度が整ったことで、国家としてまとまったし、当時日本より発展していた中国に近づいたから、よかったと思うよ。

「国家としてまとまった」という意見は、自分の根拠になかったな。だから、中国みたいに国家としてまとまる必要があったから、根拠に入れようかな。

考慮していなかった立場を知った上で、根拠を修正している。(=根拠の偏りに気付く)

【資料4】2Cチャートを活用した対話の流れ

このように、2Cチャートを作成して考えを論理的に整理する活動と、根拠の不十分さや偏りに気付くための対話という二つの場面を通して批判的思考の認知プロセスを経験させることで、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことにつながり、批判的思考力を育成することができると考えた。

### 3 6月実践「天皇中心の国づくり」10月実践「江戸幕府と政治の安定」における学習展開

| 単元と目標 | 単元「天皇中心の国づくり」（9時間完了）<br>【実践のねらい】<br>大陸文化の摂取、大化の改新、大仏造営の様子について資料で調べて、中大兄皇子や中臣鎌足、聖武天皇が行った国づくりを理解することができるようにする。また、聖徳太子の死後に実現された天皇中心の国づくりの是非について、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことができるようにする。                                                                                                                                                             | 単元「江戸幕府と政治の安定」（9時間完了）<br>【実践のねらい】<br>参勤交代や鎖国、身分制度など、幕府が大名や外国、百姓や町人などの立場に対して行った政策について資料で調べて、争いの少ない平和な時代を築いたことを理解することができるようにする。また、江戸幕府による政治の是非について、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつことができるようにする。                                                                                                                                                    |
|-------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 段階    | 主な学習活動（丸数字は時間）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| つかむ   | <p>① 聖徳太子の取組に関する資料から、聖徳太子が天皇中心の国づくりを目指していたことや、志半ばで亡くなってしまったことを捉える。また、平城京跡や大仏の写真や資料から、聖徳太子の死後、大仏が完成する頃には天皇中心の国づくりが実現されたことを捉える。そして、聖徳太子の亡くなった後から大仏の完成までに起きた出来事に疑問をもち、学習問題をつくる。</p> <div> <p>【学習問題】<br/>聖徳太子の死後、どのようにして天皇中心の国づくりが実現されたのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題の予想を出し合い、追究する視点を設定し、学習計画を立てる。</p> <div> <p>&lt;視点&gt; 政治・仏教・文化</p> </div> | <p>① 戦国時代の混乱を想起させ、長期にわたって、武家政権を維持することの難しさに気付かせた後、江戸幕府が長く政権を握っていたことを捉える。また、動画を視聴することで、他の時代に比べて、江戸時代に争いが起きた回数が少ないことを捉える。そして、江戸幕府が長く政権を握った方法に疑問をもち、学習問題をつくる。</p> <div> <p>【学習問題】<br/>江戸幕府は、どのようにして争いの少ない時代を築いたのだろうか。</p> </div> <p>② 学習問題の予想を出し合い、追究する視点を設定し、学習計画を立てる。</p> <div> <p>&lt;視点&gt; 大名への取組・外国への取組<br/>百姓や町人への取組</p> </div> |
| 調べる   | ③～⑤ 学習計画に沿って視点ごとに調べる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   | ③～⑤ 学習計画に沿って視点ごとに調べる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| まとめる  | <p>⑥ 学級全体で学習問題についてまとめる。そして、価値判断を迫る問いに出合う。</p> <div> <p>【価値判断を迫る問い】<br/>天皇中心の国づくりは、当時の世の中にとってよかったと言えるのだろうか。</p> </div>                                                                                                                                                                                                                   | <p>⑥ 学級全体で学習問題についてまとめる。そして、価値判断を迫る問いに出合う。</p> <div> <p>【価値判断を迫る問い】<br/>江戸幕府による政治は、当時の世の中にとってよかったと言えるのだろうか。</p> </div>                                                                                                                                                                                                              |
| 考える   | <p>⑦ 価値判断を迫る問いに対する考えを、2Cチャートに論理的に整理し、文章で記述する。<br/>【検証場面1】</p> <p>⑧ 判断が異なる子ども同士で、根拠の不十分さや偏りに気付くための対話を行う。その後、2Cチャートの内容を再考する。</p> <p>⑨ 2Cチャートの内容を振り返り、価値判断を迫る問いに対する答えを文章で記述する。<br/>【検証場面2】</p>                                                                                                                                             | <p>⑦ 価値判断を迫る問いに対する考えを、2Cチャートに論理的に整理し、文章で記述する。<br/>【検証場面1】</p> <p>⑧ 判断が異なる子ども同士で、根拠の不十分さや偏りに気付くための対話を行う。その後、2Cチャートの内容を再考する。</p> <p>⑨ 2Cチャートの内容を振り返り、価値判断を迫る問いに対する答えを文章で記述する。<br/>【検証場面2】</p>                                                                                                                                        |

### 4 児童の実態調査

単元「子育て支援の願いを実現する政治」の「考える」段階において、考えを論理的に整理することができるかどうかや、根拠の不十分さや偏りに気付いた上で、複数の立場や意見を踏まえて考えをもつことができているかを、価値判断を迫る問いに対する記述内容から調査する。

## 5 授業研究を通して明らかにしたいこと

- (1) 「考える」段階において、2C チャートを作成することは、考えを論理的に整理する点で有効か、価値判断を迫る問いに対する記述内容からつかむ。
- (2) 「考える」段階において、2C チャートを活用して対話を行うことは、根拠の不十分さや偏りに気付いた上で、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつ点で有効か、価値判断を迫る問いに対する記述内容からつかむ。

## Ⅲ 年間の研究計画

| 月  | 研究・調査・授業研究等                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 4  | ○ 実態調査を行う。                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 5  | ○ 研究主題の基本的な考え方を基に研究の方向性を定め、研究計画書を作成する。<br>○ 第1次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。<br>○ 長期研修の日程を作成する。                                                                                                                                                                                                       |
| 6  | ○ 第1次授業研究実践单元「天皇中心の国づくり」<br>【検証点1】 「考える」段階において、2C チャートを作成することは、考えを論理的に整理する点で有効か、2C チャートの記述内容からつかむ。<br>【検証点2】 「考える」段階において、2C チャートを活用して対話を行うことは、根拠の不十分さや偏りに気付いた上で、複数の立場や意見を踏まえた考えをもつ点で有効か、価値判断を迫る問いに対する記述内容からつかむ。                                                                                |
| 7  | ○ 第1次授業研究を分析し、基本的な考えを修正する。<br>○ 中間のまとめを作成し、今後の研究の方向性を明らかにする。                                                                                                                                                                                                                                   |
| 8  | ○ 長期研修（A日程）研究先進校や先進研究者を訪問し、研究を深める。<br><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">           ・京都大学 楠見孝氏 ・奈良教育大学 河野晋也氏 ・琉球大学 道田泰司氏<br/>           ・お茶の水女子大学附属小学校 岩坂尚史氏 ・共栄大学 橋本隆生氏<br/>           ・関西福祉大学 小野間正巳氏 ・長崎大学 土肥大二郎氏         </div> ○ 第2次授業研究の授業研究計画書を作成し、検討する。 |
| 9  | ○ 第2次授業研究実践单元「江戸幕府と政治の安定」                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 10 | 長期研修で学んだことを基に授業改善し、【検証点1】【検証点2】を検証する。                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 11 | ○ 第1・2次授業研究の成果や課題、長期研修の成果や今後の研究の課題などを明らかにし、                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 12 | 最終報告書を作成する。                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 1  | ○ 「批判的思考力を育てる社会科学習」について、1年間の成果や課題をまとめ、発表する。                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 2  | ○ 1年間の研究を反省し、今後の研究の方向付けをする。                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| 3  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                |

参考・引用文献 楠見孝・道田泰司編『『批判的思考力』21世紀を生き抜くリテラシーの基盤』（2015）